

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2772403099		
法人名	社会福祉法人みずが福社		
事業所名	しらかばグループホーム		
所在地	大阪府枚方市出屋敷西町2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成 22年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 8月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同法人の特養と地続きで隣接しているので、中庭での共有行事に参加しやすい ・医療連携においても、同法人の医療連携や連日看護師の訪問により、健康管理に充実している ・中庭での利用は利用者へのやすらぎ場面として、四季の花壇やミニ農園での、農作物収穫を最大限に活用している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772403099&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社会福祉法人が運営するグループホームで、特別養護老人ホームを開設後、「老人介護には認知症に対する新しい考え方や支援方法を提供する施設も必要である」との思いから、隣の敷地に開設して5年目を迎えています。住宅街とは少し離れています。田園風景の広がるのどかな環境の中に平屋建てのホームがあります。特養とホームの間にある広い芝生の中庭には季節の花が咲く花壇や菜園のスペースがあり、外気に触れ穏やかに過ごせる配慮があります。四季に応じた野外調理(バーベキュー等)を行い楽しみます。特養に併設する診療所と連携を図り、日常の健康管理や緊急時の対応に利用者・家族も安心できる体制が取られています。日々の利用者の食事量・水分摂取量・排泄状況はその都度フロアに設置したパソコンに入力し、データは即診療所でチェックすることができます。システムを採用しています。昼食は職員と利用者で共に手作りしています。菜園での収穫物を食材にしています。栽培が得意な利用者は、収穫までのコツを説明する場面もあります。職員は利用者へ「自由にのびのびと生活していただきたい」と願い、「利用者との関わりにおいてゆったりと平常心で明るく対応したい」と心がけています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 6月 23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「家庭的な雰囲気、脳活性化訓練を取り入れ、地域での共同生活を行い、楽しく、明るく、ときめきを感じて心の若返りを目指します。」と理念を明文化、事務所に掲示することで、常に理念を意識したケアの実践が出来るように心掛けている。</p>	<p>代表者の交代に伴い、今年度の理念を開設当初の理念に戻し、ホーム開設の原点に戻り、認知症ケアの実践に取り組んでいます。ホームの事業方針として「認知症対応型共同生活介護を提供する事業所としての役割を明確にする。」「近隣施設、特養、診療所と連携をとり、入居者様、家族様にとって『安心』『安全』『楽しい生活の場』を提供できるように、身体、精神における介護技術向上のため、職員一丸となって取り組む」を掲げています。理念は事務室内に掲示し、申し送り時に唱和しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	隣接の特養と合同の夏祭りや地域交流会の開催で地域との交流を行っている。そしてボランティア団体の来訪、中学生職場体験の受け入れ、を行っている。また近隣のコンビニエンスストアによる出張コンビニを開催し、利用者様と地域との交流機会を確保している。	ホームの周辺には住宅地がなく自治会等に参加する機会はありませんが、ホームのそばにある畑を管理している方々とは挨拶を交わします。法人主催の夏祭りの他、今年は地域交流会を開催し、地域の商店や業者による模擬店やボランティアによるゲーム、似顔絵描き、フリーマーケット等を設営し、近隣住民・利用者家族にも参加してもらい交流を図りました。職員による介護相談のコーナーも設けました。大学生の実習や中学生の体験学習も受け入れ、利用者との交流を図ります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に対する貢献は現時点では行えていない状況である。今後、地域の為に役に立つことはないか検討していきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様へのサービス提供報告をし、話し合いで出た意見は、出来る限り、サービスの質の向上に活かしているように努めている。	運営推進会議は利用者代表、利用者家族、地域包括支援センター職員、地区民生委員の出席を得て、2カ月に1回開催しています。ホームの状況報告、行事予定、職員の人事異動に伴う職員体制の説明を行っています。参加家族からは、「看取りについて」の質問提案等を受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導を真摯に受け止め、サービス、及び介護の質の向上に取り組んでいる。	外部評価結果及び運営推進会議議事録は、市の担当課に提出しています。事故報告書の提出や援助困難事例について、市の担当職員・地域包括支援センター職員を交え利用者家族と四者会談を実施し、助言を受けます。介護相談員の訪問は月1回あります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については積極的に外部研修、または隣接特養の内部研修に参加し、共有認識を図っている。日常的には利用者本位の生活支援を主に施錠等、抑圧感を抱かないように心掛けている。	身体拘束等の排除のための取り組みに関するマニュアル等を備えています。法人のリーダー会では「身体拘束廃止委員会」があり、リーダーは参加しています。職員は法人内の身体拘束の研修に参加し、その内容を記録してホーム内で共有しています。現在身体拘束が必要な利用者はなく、身体拘束に該当する事例もありません。ホーム玄関は日中開錠しており、利用者は自由に広い中庭に出て外気に当たることができます。道路に面している出入り口のドアは、外部からはコールの必要がありますが、中からはタッチ式で出入り可能です。エレベーターも階段も自由に利用できます。利用者が外出したい様子があれば、職員が付き添って出かけるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないものの、虐待の事実が見過ごされることのないように日々不審な点がないか注意を払っている。また高齢者虐待の法的研修や実例研修に参加し、職員の共有認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修によって学習する機会を確保し、今後も順に研修を受講予定である。また成年後見制度については実例もあり、実践的な中で学びに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時の契約及び解約は、利用者様・家族様に十分に説明し、了承を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱を設置している。そして運営推進会議や家族会、ケアプラン交付時や電話等、聴取の手段を問わず、紙面にまとめ、内容を吟味し、運営へと反映させている。</p>	<p>家族の来訪時には利用者の日々の様子を伝えて意見・要望を聞きます。緊急時には電話で報告しています。また、毎月個別の報告書を送っています。その都度家族から意見要望を聞く機会を持っています。運営推進会議には家族代表からの意見を聞く機会があり運営に反映させています。ホーム玄関に意見箱を設置しています。前回の外部評価結果は利用者家族が閲覧できるように、ホーム玄関窓口に設置してある資料集で閲覧できるようになっています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議の中で出された意見や提案事項が反映できるように努めている。また提案に対しての結果を報告し、今後の改善や次のステップに繋げている。</p>	<p>月に1回のホーム全体会議やユニット会議において、職員は業務に関する意見を提案します。人事や管理のことも職員が要望を出し、改善されることもあります。また、会議以外に日頃の打合せなどでも職員の意見や思いを管理者に伝えやすい環境が作られ、自由に発言しています。利用者の個人記録に職員の「気づき」を記入するページを付け加え、きっちり記録しています。そこからも職員のアイデアが活かされており、管理者は必要なことを運営に反映しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は同法人の一職員として雇用し法人の就業状況について、管理者を通して個々に伝え、非常勤者も意欲と努力により、正職員登用を目指せるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市との連携により、出来る限りの研修情報を得、法人内外の研修が受講できる体制を組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームは兵庫県下にもあり、管理者を含め、絶えず交流を深めている。建物形態の違いや人員配置に違いがあるものの、双方に学ぶべきことが多く、サービスの向上に役立っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様同伴での見学を勧め、サービス利用前には自宅を訪問、日々の生活の様子や要望を聞き、安心して入居が出来るように努めている。また入居直後は特に注意を払い、ホームの生活に馴染めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学を勧め、サービス利用に際して、不安に思っていることや要望を聞き、利用者側の見方だけでなく、家族側の見方にも立ち、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階では話を十分に傾聴、ポイントを整理し、安易にホームへの入居は勧めず、様々な選択肢を提案した上で問題解決に向けた助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と一緒に暮らせない状況にある利用者様にとって、ここが安心して暮らせる場所と感じてもらえるように職員もその一員としての関係を築く心掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の都合の良い時に面会をして頂いたり、利用者様からの要望があれば、状況を判断した上で家族様へ連絡を取り、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、家族様には定期的な面会をお願いし、馴染みの関係が途切れてしまわないように努めている。また家族様の許容範囲内で、本人様が良い思い出を持つ場所に関係する人との交流も勧めている。	お墓参りや気に入っていた店での外食など、これまでの生活が継続されるよう、機会作りに努め実行しています。また、家族や知人がホームを訪ねやすいと感じる雰囲気できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流し易い居間において、馴染みの関係が作れるよう支援に努めている。また建物が2ユニット、1フロアの形態であることからユニット間の利用者交流も可能となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	能動的な支援は行ってはいないものの、退居後も家族様から相談等があれば誠実な対応に努めていきたい。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での様子や家族様からの情報、利用者様とのコミュニケーション等により、本人の思い、及び希望の把握に努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者の言葉や表情から思いや希望を汲み取り、確認を行いケア目標等に関わることは計画作成担当者に伝えます。日常的な関わりについて利用者本人や家族から得た希望や意向は、個別日誌の気づきシートの頁に記録し、個別評価や介護計画に反映させています。外出先や外食希望を確認したりする等、可能な限り個人の希望を尊重するように心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接記録、各サービス担当者の情報、本人との面談等により、情報を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活情報をスタッフ間で共有し、利用者様一人一人に合った過ごし方が出来るように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ユニット会議を開催、居室担当者から、利用者様の課題やケアの方法を討議し、3ヶ月に1回、ケアプランの見直しに反映させている。	入居時および入居後の利用者・家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画書を作成し、家族に説明した上で、確認の署名を得ています。利用者一人ひとりについて居室担当者から課題・ケアの内容についての提案を受け、毎月の「行動実施表」を確認し、月1回ユニットケア会議において個別評価・1カ月の全体評価等のケース検討会を行います。3ヶ月に1回介護計画を見直し、作成しています。また、期間内でも利用者の変化に応じた介護計画の見直しを行う場合もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人記録、特記事項があれば各ユニットの日誌に記載することで情報の共有に努め、日々のケアの実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設形態としては単独ではあるが特養と隣接していることにより、将来的には家族の要望への対応も可能で、特養との合同行事への参加や個の支援に対して、多角的な援助が可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の特養施設との協力体制の他、運営推進会議での地域包括支援センター、民生委員、避難訓練での消防署との交流機会の確保により、安全な暮らしに向けた支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接診療所への受診援助と外部専門病院への紹介による受診援助を行っている。	入居前からかかりつけの医療機関への受診については、希望を尊重し支援を行っています。法人併設の診療所の医師による受診も可能です。他の医療機関を受診する場合には、基本的に家族が同行しますが、必要に応じて職員も同行する場合があります。また、併設診療所の診療情報提供書により情報を提供しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接診療所との連携、及び支援体制の協定をしており、毎朝・夕には利用者様の健康状態について申し送りをし、指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、面会に行き、本人様の様子を伺ったり、病院関係者との情報交換に努め、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの「出来ること、出来ないこと」を、医療関係者との情報交換・スタッフとの話し合いを持ち、チームでの支援が出来るよう検討を重ねている。また医療連携体制が取れることから、重度化や終末期に向けた指針については家族へも説明の上、同意を得ている。	入居時には利用者や家族から重度化した場合や終末期ケアについての希望を伺い、特養入所申込書を提出する場合があります。入居時に「看取りの指針」を示し、同意書を提出してもらいます。運営推進会議でも説明を行い、利用者家族の意見を伺い検討しています。入居後に重度化した場合はその都度利用者家族・かかりつけ医・看護師・職員と話し合い「ホームでできること・できないこと」を情報交換し、チームでの支援が必要な範囲で利用者・家族の希望に添った支援を行います。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の備えは特に重要なことで、これも同法人の特養職員の緊急時の対応研修や勉強会、実施研修に積極的に参加することで、個々のスキルを高める努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣に民家の無い場所に立地している為、当ホーム独自で避難訓練を実施し、隣接する特養との協力体制の基に安全対策、訓練を実施している。	消防・避難訓練は消防署の指導を受けて年2回実施しています。地震対策・風水害対策・非常災害時対応マニュアルを作成しています。夜間を想定した避難訓練を実施しています。定期的に災害を想定した避難経路の確認や消火栓の使い方などの確認を行っています。隣接の特養によるバックアップ（協力体制）を得て安全対策・避難訓練を実施しています。1階平屋建てですが、市の支援を受けてスプリンクラーの設置を予定しています。災害時の非常食と飲料水をホーム独自にも保管しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに無配慮になりそうな状況があれば、随時指導を行い、またスタッフ会議や勉強会においても、周知徹底を行っている。またケアプランにも取り入れ、実施している。	職員会議や勉強会の際に、プライバシーを損なわない対応の徹底が図られています。玄関には個人情報保護に関する方針や個人情報使用目的について掲示しています。日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応・言葉遣いを心がけ、気づいたときは互いに注意し合います。職員は就職時に秘密保持に関する契約書を提出しています。個人記録やファイルは、事務室に保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に応じて、コミュニケーションの方法を変えながら、意思の疎通を図り、日常生活の様々な場面において、利用者様の希望の表出が可能となるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活パターンを把握し、出来る限り、利用者様のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を聞き、訪問理美容を定期的に利用している。また衣類については更衣の際、好みの服を選んで着用して頂けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は利用者様に料理の盛り付けや後片付けをお願いし、職員と一緒に作業を行っている。また昼食は手作りであるが、献立の内容によっては、調理に参加していない利用者様にも調理の様子がよく見える場所で作業を心掛けている。	朝・夕の食事はクックチルド製法の食材を利用しています。昼食は利用者の好みを取り入れ、職員が調理しやすい献立を考えています。昼食の食材購入には利用者と共にいきます。中庭の菜園での収穫物もメニューに加え、食事時の話題になります。利用者は職員と共に、野菜の下ごしらえや盛り付けなどを行います。管理者は利用者と同じものを共に食べながら、会話を楽しんでいます。職員は持参の物を食べていることが多い状況です。	今後は、昼食のカロリーや栄養バランスについての検討をすることも望まれます。また、職員は検食の意味も兼ねて、利用者と同じものを共に食べるような配慮を検討してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じて、ゼリー状のドリンク、栄養補助食品の使用、そして提供する食事も刻むなどの工夫を行っている。また食事用具も使い易い形状の物を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、実施しているが、利用者様の状態に応じて、歯磨き、義歯洗浄やうがい、清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄確認を記録し、排泄パターンの把握に努め、出来る限り、トイレでの排泄を心掛けている。	職員の「行動実行記録」に、利用者一人ひとりに対応した排泄介助の時間や方法や結果などを書き込み、排泄パターンの把握と職員間の共有を図っています。記録に基づいた個別の排泄支援でトイレでの排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便確認を毎日行い、必要に応じて、排便促進作用のある飲み物の提供を行っている。また散歩、運動機会の確保も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制の問題もあり、入浴は週3回、時間帯も一定であるが、個浴の設備があり、独りでゆっくり入浴することは可能である。また希望により、入浴剤の使用や季節風呂の機会を設け、入浴が楽しめるように支援している。	基本的には週3回は入浴できるよう支援しています。大きさの違う浴槽が2つあり、個浴を好まれる方、利用者同士二人で共に入り会話を楽しまれる方等、希望に添っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は全て個室であり、出入りは自由となっている。また利用者様の中には希望がなかったり、適切に表現出来ない場合もある為、様子を観ながら、休息機会の確保が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効能表を職員が見える場所に設置し、必要な時は利用者様の処方箋と一緒に確認が可能となっている。また配薬も一人一人の薬箱に分け、複数の職員が関わることにより服薬が正確に出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が出来る利用者様には、毎食事ごとの準備や洗濯物たたみ。園芸が出来る利用者様には園芸活動。歌が好きな利用者様には皆で楽しく歌う等、臨機応変に気分転換の機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望のある利用者様とは一緒に出掛け、外出の機会を確保しているが、利用者様の中には希望がなかったり、適切に表現出来ない場合もある為、日常の会話の中から利用者様の気持ちが読み取れるように心掛けています。	ホーム周辺の農道への散歩、食材購入に近くのスーパーマーケットやコンビニへは、利用者と共に徒歩や車で出かけます。日常的な外出以外に、月1回以上希望に応じて外食へ出かけられるように支援しています。また、季節に応じて梅・桜・菖蒲・紅葉などを楽しむドライブに出かけます。外出を好まない利用者も、特養との間にある広い芝生の中庭で外気に触れながら歩いたり、体操や歌を唄ったり、お茶を飲むなど、戸外で過ごせる機会を多く持つ支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様から希望があれば、財布を所持して頂き、買い物の際、ご自身の財布から支払いが出来るように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	廊下には公衆電話を設置し、希望があった時や利用者様にとって（声を聞くことが）必要と思われる状況であれば電話を掛けている。また手紙については代筆や切手の購入、ポスト投函の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には天窓があり採光に配慮している。そしてテーブルや洗面台には季節の花々を掛け、壁面のコルクボードには行事予定を書いたカレンダーを掲示している。また湿温計と加湿器も設置し、安定した湿温調節、及び一日一回程度、館内の換気を行い、利用者様が居心地よく過ごせるように心掛けている。</p>	<p>共用部分には天窓からの採光もあり、明るくゆったりとしています。玄関にはボランティアの方による活け花が飾ってあり、リビングには背面の高いゆったりしたソファがテレビの前に設置し、寛ぐことができる場所を確保しています。壁面のボードに季節感を出す装飾、行事の写真や今後の予定も掲示しています。廊下にもソファや椅子を置いてあり、利用者がひとりで寛げるスペース作りをしています。中庭が見渡せるテラスから出ると洗濯物も干しやすくなっています。中庭には季節の花々がプランターに植えてあり、庭の奥には菜園もあって、成育を楽しみに眺めます。玄関ドアの外に飲み物の自動販売機も設置してあり、自由に購入できます。</p>	<p>廊下に設置してあるソファや椅子には防汚のため、ビニール材質の敷物を被せてありますが、ゆったりとした共用部分には違和感があります。今後は、馴染みやすいカバーにするなど、工夫をされてはいかがでしょうか。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物内部は食堂兼居間という構造であり、寛ぎのスペースが取り辛い状況であるものの、廊下を活用してソファ、椅子、小テーブルを設置し、独り、もしくは少人数がリラックスして過ごせるように心掛けている。</p>	<p>（このセルは対角線が入っており、評価内容が記載されていません）</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には自宅で長年使っていた家具、そして親、配偶者、子供の写真、趣味の道具（楽器・本）、信仰に欠かせない道具（仏壇、聖書）を持ち込んで頂き、ご本人様が居心地よく過ごせるように心掛けている。	居室の入り口には、それぞれ好みののれんが掛けてあり、自室の目安にもなっています。入居時には自宅で使い慣れたタンス・三面鏡・机・椅子等を持ち込んでいます。仏壇や遺影を飾っている方もいます。お気に入りのぬいぐるみを置き、壁面には誕生日プレゼントとして職員のコメントも添えた写真入の色紙や手作りの作品を飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、車椅子の利用者様でも支障なく移動が可能となっている。またトイレの場所や居室のタンスに入っている衣類の表示等、日常生活の場で残存機能を活用出来るように心掛けている。		